

一

問一 ア 千イ万

問二 ① 完結 ② 誤差 ③ 簡単 ④ おおうなばら ⑤ 領域

問三 「エベレスト」は、その山頂を目指す、という登頂目的をもった行為の象徴である。それに対し、筆者の考える登山とは本来、予定調和に終わらず、その場の状況や判断によって行程を変えたりエスケープしたり、その判断の正誤によって、ときには命を危険にさらすこともあるという自由感覚があるという点で「旅」と似ている。登頂という目的よりもその行程にこそ登山の本質的な魅力がある、と考える筆者の強いメッセージがこめられている。

問四 GPSを使うと、命を賭した判断が迫られるなかでの自然との関わり合いが希薄となる。それは、プロセスのなかでの自然とのかかわりに魅力を感じておこなう冒険の本来の動機が失われることを意味する。すなわち、冒険の手助けとなるはずの手段が、冒険そのものの意義を損ないかねないという皮肉に陥っているということ。

問五 GPSを使うことで、自然への働きかけがなくなり、自然との関与領域が狭まることにより、自分の存在確認が実感できなくなってしまふ。また、周囲の自然や土地の真実の姿とふれあい、その土地を知ることでもできなくなってしまふ。そのため、「旅」本来の意義が失われ、旅する喜びが見いだせないような焦りを感じているということ。

二

問一 1 ア 2 オ

問二 さえずり

問三 自分の力でその美しさにあこがれていたニュウシユを書きあげた達成感の喜びと、文字を書けるようになったことで、自分を表現でき、自分という存在を実感できるようになった喜び。

問四 自分の大切な人たちが自分に向けて贈ってくれた言葉に感じた温かさや愛情の重さが、物理的な三朝書の重さと掛け合わされているということ。

問五 イーレイおばあさんの言うように、ハル族の女性はニュウシユの読み書きも禁じら

れ、姑に茶を出すように、しきたりや古い因習に縛られている。結婚することによって、女性が被るこれらの不自由さ、辛さや苦勞を思いやり、自分が心豊かにいられるための表現するという方法を年若いシューインに伝えることで、これからの新しい生活をのりこえてほしいという願いがあったから。